

2013-C-26

貿易指數データベースの作成と分析 —東アジア地域を中心として— (中間報告)

桑森 啓・内田陽子・玉村千治 編

2014年3月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書

開発研究センター 2013-C-26

「貿易指数データベースの作成と分析—東アジア地域を中心として—」研究会

2013-C-26

貿易指數データベースの作成と分析 —東アジア地域を中心として— (中間報告)

桑森 啓・内田陽子・玉村千治 編

2014年3月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

まえがき

本書は、アジア経済研究所において 2013 年度から 2 年間の予定で実施されている「貿易指数データベースの作成と分析—東アジア地域を中心として—」研究会の 1 年目の成果（中間報告書）である。

近年、自由貿易協定や多国籍企業による直接投資を通じた国際分業の進展により、世界の貿易は急速に拡大しつつある。なかでも、東アジア地域における貿易の拡大は著しい。このような貿易の拡大を通じた各国間の相互依存構造の状況およびその変化や、その背後にある国際分業の進展（の度合い）などを定量的に把握することは、現在の世界経済の構造、とりわけ東アジア地域の経済構造を理解する上で重要であると考えられる。

貿易を通じた各国の経済構造を把握するための指標として、競争力指数や分業度指数など、主として貿易統計を利用した指標が考案され、計測・分析が行われてきた。しかしながら、これら貿易指数の計測は、研究者や政府機関、国際機関がそれぞれの分析目的に応じて、また、利用可能なデータの制約や技術的な課題もあり、極めて限られた国・地域や産業および対象期間についてのみ行われてきた場合が多く、データベースとして汎用性のある貿易指数の作成が行われてきたとは言い難い。

このような背景から、本研究会では、貿易の拡大著しい東アジアを中心とする国・地域について、貿易指数を比較可能な形でデータベースとして整備するとともに、それら指数を用いて分析を行い、東アジア諸国間の相互依存構造を明らかにすることを目的としている。本研究会の成果は、貿易指数を用いた分析のための基礎資料を提供するものとして、一定の役割を果たすことができると思われる。1 年目である本年度は、東アジアを中心とする約 30 カ国・地域について貿易統計を整理・加工して代表的な貿易指数を作成するとともに、それらを用いた基本的な分析や指数の特徴について検討を行った。また、東アジアにおける貿易構造変化の背景の質的な分析やアジア国際産業連関表を利用した東アジア諸国の分業構造の分析も行っている。これらは、貿易指数のみを用いた分析を補完するものとして、東アジア地域の相互依存構造の一層の理解に資するものと思われる。

2 年目となる 2014 年度は、引き続き貿易統計の収集・加工を行って貿易指数の補完・整備を行うとともに、より詳細な分析もしていく予定である。

2014 年 3 月
編 者

執筆者一覧

桑森 啓	開発研究センター 国際産業連関分析研究グループ（研究会主査）
内田陽子	開発研究センター 国際産業連関分析研究グループ（研究会幹事）
玉村千治	開発研究センター 国際産業連関分析研究グループ
長田 博	帝京大学経済学部教授
佐野敬夫	元岐阜聖徳学園大学教授
福井幸男	関西学院大学商学部教授

※外部委員については五十音順で掲載。

目 次

まえがき

執筆者一覧

序章 貿易指標データベースの作成と概要

桑森 啓・内田陽子・玉村千治

1. 背景と目的	1
2. 本書の構成	2
3. 貿易指標データベース作成と概要	3
別表 1 主な経済統合の枠組みと参加国	9
別表 2 WTA データの利用可能性（対象国のみ）	10

第1部 分 析

第1章 東アジアにおける成長メカニズムと貿易構造の質的変化

長田 博

はじめに	15
1. 東アジアにおける成長メカニズムと貿易構造の質的変化の兆し	17
2. 貿易構造の変化－貿易マトリクス分析－	19
3. 貿易構造変化と国内マクロ経済	33
4. 中所得国におけるミドルクラスの出現と内需依存型成長	40
おわりに	41

第2章 産業内貿易指標の計測

桑森 啓・内田陽子・玉村千治

はじめに	43
1. 国際分業の概念とその計測方法：産業内貿易指標	44
2. 国際分業度指標の計測結果	50
おわりに	57
補論：貿易不均衡調整済みの産業内貿易指標の計測結果	58

第3章 アジア太平洋地域の国際分業度指数

—指数の作成と国際分業の観測—

佐野敬夫

はじめに	61
1. 国際分業度指数の定義と作成	62
2. アジア太平洋地域における製造業の国際分業	69
おわりに	87

第4章 東アジア諸国の比較優位構造

—顯示比較優位（RCA）指標および顯示対称比較優位（RSCA）指標による分析—

内田陽子・桑森 啓・玉村千治

はじめに	91
1. RCA 指数による分析	92
2. RSCA 指数による分析	101
おわりに	105

第5章 RCA 指数の比較方法に関する一考察

玉村千治・福井幸男

はじめに	111
1. RCA 指数の比較方法 一定義式からの形式的な比較	112
2. 日韓米の RCA 指数による比較	120
まとめ	126

第2部 データ

付表1 国コード表	141
付表2 品目分類表	143
付表3 産業内貿易指標（グルーベル=ロイド指標）	151
付表4 顯示比較優位指標（RCA 指数）	215

調査研究報告書
開発研究センター 2013-C-26
「貿易指数データベースの作成と分析—東アジア地域を中心として—」研究会

2014年3月31日発行
発行所 独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3-2-2
電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。
